

HANKYU MOOK
The Magazine for Superior Off Time

都京の人の大

2004年
春・夏号
本体価格
838円(税別)

桜の散歩道5コース
至福のワインバー
琵琶湖ドライブ

全マップ付

祇園が、オモシロイ。

大特集
歩く
食べる
買う
遊ぶ

一見さんでも大丈夫。
新しい祇園を総チエック！
旬のうまい店／町家ダイニング
カジュアルお茶屋遊び



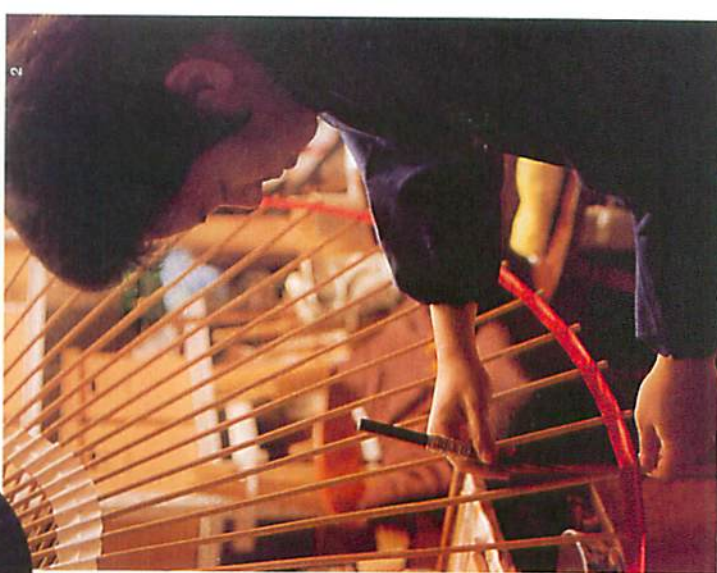
普段の暮らしから姿を消しても、 新たなかたちで愛され続ける。

日本で傘が使われ始めるのは江戸の天明年間（1781～1789）以降のこと。最盛期には全国で年間千万本以上も生産されていたというが、戦後の生活変化にともない洋傘にその座を譲り、急激に衰えてしまった。現在、京都で和傘を制作しているのは、たった1軒のみ。その稀少な1軒が、創業100年余を誇る日吉屋である。裏千家御用達の本式野点傘をはじめ、紙傘の目傘、華傘など、あらゆる和傘を製造、販売している。

和傘は、竹の骨を糸で綴じ組み、和紙にあわせて切った和紙を張り、色をつけ、油を塗って天日で乾燥させてつくる。天然

の素材で丁寧に手づくりされた美しい傘は、誰もが手に取りたくなくはない名品だ。「物づくりに好きなまで作業はこどもも楽しいですよ。竹や紙など自然の素材はかみやすから、手廻りもいやすい」と語るのは若手29歳の、代目店主、西尾さん。最終は琵琶アコースティックとして購入されることも多く、インターネットによる個人客や海外からの注文も増えているのだという。日常の品から特別な用途の品へと形を変えたものの、和傘の美しくぬくもりある姿は少しも変わることなく人々に愛されているようだ。

- 1 骨を入れた要傘（13,000〜）と野点傘（13,000〜）。
- 2 傘だけは仕入れるが、他はすべて手作りする。→期間はかかるという。
- 3 4 日傘に用いられる要傘（5,800〜）。油が塗られていないので、油の目には使えない。
- 5 庄のデザインのアレイにも使われる野点傘の要傘（6,000〜）。



京は宮廷寺の門前に立つ、代々、寺の境内で傘を干させてもらっているそう。



日吉屋
 〒605-4417 京都府上京区 本之内4
 堀川東入 八百八町546 ☎075-700-1800
 ☎日傘 ☎紙傘 ☎要傘 日傘 ¥5,800〜 紙傘 ¥9,000 要傘 ¥14,000
 ☎丸し ☎折畳傘 ☎折り畳み傘 ¥12,500
 堀川西之内 堀川下 堀川上 ☎075-700-1812
 ☎http://www.hiyoshiya.com/detail/index
 ☎@chiyamichancontent011111

野点傘の大きなものになると重量は3メートルにも及び、大きいほど作業は難しくなる。

